

Everyday Life, Expanded by the Shinkansen.



日常がもっと便利に、もっと快適に

新しい車年系界で、広がりの日常。

新幹線は
便利!

都市部へのショッピングや病院への通院も、新幹線ならスムーズ。移動中はゆったり座って仕事をしたり、本を読んだり、自分の時間を楽しめます。

新幹線は
安全!

雨や雪の日でも安心して走れるのが新幹線。道路の渋滞に巻き込まれる心配もなく、速さと時間の正確さ、安全性で信頼できる移動手段です。

新幹線は
速い!

遠くの職場や学校への通勤・通学も
新幹線ならラクラク。短時間の移動で
勉強や仕事はもちろん、家族との大
切な時間もしっかり確保できます。



知って
ましたか!?

秋田駅〜盛岡駅の区間で

**特定特急券・タッチでGO!新幹線なら、
秋田新幹線に
おトクに乗れちゃいます!**

秋田新幹線 運賃・特定特急料金
(カッコ内は子ども料金) ※記載の金額は乗車券も含まれます。

駅名	秋田	大曲	角館	田沢湖	雫石
盛岡	3,890円 (1,940円)	2,650円 (1,320円)	2,300円 (1,140円)	1,530円 (760円)	1,090円 (540円)
雫石	3,560円 (1,780円)	2,300円 (1,140円)	1,620円 (810円)	1,270円 (630円)	
田沢湖	2,820円 (1,400円)	1,440円 (720円)	1,090円 (540円)		
角館	2,470円 (1,230円)	1,090円 (540円)			
大曲	2,120円 (1,050円)				

例えば特定特急券なら
秋田〜盛岡間往復で
1,060円おトク!!
※乗車券での運賃

※秋田新幹線は全車指定席です。特定特急券では座席の指定はできませんが、普通車指定座席用の空席をご利用いただけます。
利用した座席の指定座席券をお持ちのお客さまがご来校した、席をお取りください。
※特定特急券は事前予約不要。タッチでGO!は利用日の前日利用が必須です。
※タッチでGO!の乗車券と乗車券を有する利用の区間にあつては、所定の乗賃・特定特急料金よりも低廉になる場合があります。
※上記価格とは2025年9月発売の情報を、詳細は「JR東日本」のホームページにてご確認ください。



ビックあきた Vol.533 2025年11月28日発行 編集発行/公益財団法人 あきた企業活性化センター 〒010-8572 秋田市山王三丁目1番号
TEL.018-860-5610 FAX.018-863-2390 本誌は、賛助会員への配布となっております。購読を希望される場合は、上記までお申し込みください。

BIC Business Information Center
AKITA

2025 vol.533

12

ビックあきた]
公益財団法人
あきた企業活性化センター



04 活用事例

有限会社 アシスト実務工房

05 わたしたちのSDGs
タプロス 株式会社

06 ビックあきた×秋田県産業労働部 中小企業振興施策レポート
北光金属工業 株式会社

07 主催事業報告

08 経営サプリメント

10 お知らせ

SNSでも県内企業の取組や
事業をサポートする情報を発信！



 Instagram



 facebook



 Youtube

100年企業を目指して 人の育成に力を入れたい



電子機器部品や磁性製品の精密加工を行う ニッチな領域で技術力を生かしたものづくり企業



小林テック 株式会社

由利本荘市内に4つの拠点を持つものづくり企業・小林テック株式会社。昭和48年、旧矢島町の誘致企業第一号として、親会社である「小林工業株式会社」の矢島工場が開設され、その後、矢島小林工業株式会社として独立。創業50周年を迎えた令和4年、現在の社名に変更した同社に、幅広いものづくりを行う上でのこだわりや強み、人材育成についてお話を伺った。

代表取締役社長 今野 智彦

〒015-0411
由利本荘市矢島町城内字沖小田429
TEL 0184-56-2637
<https://ktech.co.jp/>



HP



矢島の誘致企業第一号 TDKの協力会社として設立

現在の代表取締役社長である今野智彦さんの祖父にあたり、初代社長を務めた小林忠彦氏がTDK株式会社（以下、TDK）の創業者・斎藤憲三氏に師事していたことから、現在も同社の受注の7割はTDKによる依頼が占めている。薬師堂工場・川辺工場がいずれも電子部品製造の拠点だ。

「弊社は『農林業しかなかった矢島地域に新たな産業を起こし、雇用を創出したい』という思いから創業しています。これはTDK設立の経緯とも通ずる精神です。矢島の本社工場ではセラミックスやフェライト、マグネットなど磁性材料の精密加工を行っています。実はこの分野は全国的にもニッチであり競争がいない分野です」。

また、もともと社内で使用する治工具を製作する部門として立ち上げられた愛宕山工場も、平成に入った時分で、時代の流れに合わせ受託加工に切り替えた。主にステンレスやアルミなどの切削加工、各種治工具類の製造や研究開発、医療機器関連装置の設計・製造などを行っている。



愛宕山工場の様子。20～30代の社員も活躍中。

技術力を継承させ、残していく 多能工化を目指し、効率化も

「これまでコンピューターやファクシミリ、通信機器など時代のニーズに応じたものづくりを行ってきました。過去にはコンピューター用HDDヘッド



同社が製造する製品のサンプル。

も弊社が製造させて頂きました」。

産業・電子機械が著しく発達した昭和59年を皮切りに従業員数は増加。現在は4拠点で約300人の従業員が働いており、定年は60歳だが、多くは65歳まで延長し、勤務を続けている。

「従業員の技術力が会社の財産。ベテラン従業員の技術を継承し、ノウハウを残すことは重要です。若い従業員にはジョブローテーションでさまざまなポジションを経験させ、多能工化にも取り組んでいます」。

顧客だけでなく、従業員も 丁寧な関係構築を目指す

同社の今後について、大事にしたいことをお聞きした。

「人口減少により、人材も限られている。貴重な人材を活かすため、ただ色々な分野に手を伸ばすのではなく、お客様

を理解し、満足していただける製品を提供することを第一に仕事していきたいです。その一環として、勤務体系を8つに分け、受注内容に応じ、工程ごとに勤務体系を調整するなど工夫し、生産管理能力を高めています。工場や部署の異動もありますが、地域性なのか面倒見の良い従業員が多くて、アットホームな雰囲気がか社自慢です。チームワークの良さで、お互い支え合いながら対応してくれる従業員たちに、本当に感謝しています」。

「企業は人」だと今野さんは話す。

「経営は『決断・勇気・実行』を信条に、人を育てて会社、そして最終的には社会に貢献していきたい。社内で若手の研修会を開いたり、イベントを開催して社内のコミュニケーションを活発にしています。適材適所でそれぞれの特性を生かして働ける場所にしたいですね」と今後の意気込みを教えてくれた。



取引先から送られてきた図面を基に設計を行う部門。



検査部門では最新装置を使い、しっかり品質を管理。

良いものを残し、
広めていくための
さまざまな取組を行う。



商品をきっかけに、秋田や岩崎へ
遊びに来てもらえるような
商品を作りたい。

岩崎という場所の魅力を残し、広める取組

平成16年に創業した有限会社アシスト実務工房。住宅雑誌『住まいの提案秋田』などの出版や、インテリアショップ&カフェ『momotose』の運営などを展開している。代表の沓澤さんに、事業への想いを伺った。

「カフェとして活用した建物は、もともと内蔵のある古民家でした。所在地である湯沢市岩崎は昔から発酵文化が盛んな地域で、今も味噌・醤油の醸造蔵があります。その場所の佇まいや文化を残すため、平成26年にリノベーションし、カフェとして活用することにしました。ランチには地元の発酵食品を使った料理を提供しています。令和2年には同じ岩崎の使われなくなった建物を、当時の面影をできるだけそのまま残せるようにリノベーションし、一棟貸しの宿泊施設を始めました」。

沓澤さんは、「暮らすように旅をする」というスタイルを提案しながら、岩崎が持つ文化の素晴らしさを感じてもらいたいと考えている。

岩崎の魅力を詰め込んだ、大豆発酵食品を開発

令和3年に同社は新たな事業として豆腐の製造をスタート。事業再構築補助金を活用し、かつて倉庫として使われていた建物の中に加工場を設けた。一般的な豆腐とは異なり、豆腐を発酵させて調味した商品だ。調味料には地元・石孫本店の醤油や塩麴を使用している。『TOU』というこの商品は、発酵させることにより、消化吸収がしやすく、胃腸への負担を減らせるという特徴がある。

「質の良い発酵調味料を使うので、それに見合う豆腐を作りたいと思い、昨年から大豆の生産を始めました」。

販路開拓のため、展示会へも参加。展示会では商品に適した売り方を見つめ直す機会となったと振り返る。活性化センターの知財・デザイン支援課から情報を提供してもらい、今後も出展を行う予定だ。

沓澤さんは「商品を通じて、岩崎の歴史と発酵文化の素晴らしさを広めたいですね。結果として岩崎へ足を運びきっかけになれば」と想いを語ってくれた。



くつざわ ゆうこ
代表 沓澤 優子 (写真中央)
広報製造補助 柴田 百架 (写真左)
製造責任者 藤谷 奈緒 (写真右)

有限会社 アシスト実務工房
〒012-0801
湯沢市岩崎字岩崎160
TEL: 0183-55-8839
<https://toutou.jp/>



HP

▶活用事例 デザイン支援

産業デザイン、製品開発、マーケティング等についての専門的な助言や、デザイナーとのマッチングを支援します。

【お問い合わせ】
知財・デザイン支援課
TEL. 018-860-5614



かつてJAの倉庫として使われていた建物を改装して、スタイリッシュな加工場に。



大豆を洗って浸漬させ、蒸してから潰し、にがりを加えて豆腐を作る。



加工場付近にあるインテリアショップ&カフェ『momotose』。温かみのある素材で作られた空間だ。



わたしたちの
SDGs



タプロス 株式会社

秋田市で創業70年を迎えたタプロス株式会社。LPガスの販売を主軸とし、灯油や天然水宅配、発電・電力販売事業、住宅設備機器の販売など暮らしに密着したサービスを幅広く提供している。エネルギーの持続可能性に向けた取り組みについてお話を伺った。



代表取締役社長 さとう ひろき 佐藤 寛樹
〒011-0901
秋田市寺内字後城322-3
TEL. 018-845-1141
<https://www.tapros.co.jp/>



HP

県民の暮らしを支え、寄り添う事業を展開

秋田市に本社を置き、県内に5つの支店・営業所を持つタプロス株式会社。昨年2月に代表取締役社長に就任した佐藤寛樹さんにお話を伺った。

「当社ではLPガスのほか、灯油や電気、飲料水の4つのライフラインを提供し、皆様の毎日の暮らしを支えています。LPガスや灯油といった、地球エネルギーを通じたサービスを行っていることもあり、社会への奉仕と環境の保全へ取り組んできました」。

創業60周年を機に新規事業に着手。社員から意見を募った結果、現在コインランドリー事業を展開している。

「コインランドリーの熱源にはLPガスを使用するため、自社のサービスとの親和性もあります。第1号店である由利本荘市の店舗にはカフェを併設しています。地域の皆さんに親しんでもらえるように、そして地域のコミュニティの場を提供したいという想いから実現したものです」。

CO2排出量実質ゼロで環境配慮を実現

LPガスは、他の化石燃料と比較するとCO2排出量が少ないが、CO2を排出するという事実には変わりはない。そこで同社では、環境への配慮を実践するため、国が推進する「J-クレジット」を活用したカーボンオフセットの取組を始めた。

「LPガスを燃焼させたときに排出するCO2量のクレジットを購入することでカーボンオフセットLPガス（以下、COLPG）として供給するサービスを令和5年から始めています。ここ数年で、地球温暖化や環境破壊による暮らしへの影響が目に見えて深刻化しています。この状況に対し多くの企業や経営者にアクションを起こさなければという意識も芽生えており、徐々にCOLPGの需要も増えていると感じています」。

COLPGは価格が高いと言われるが、社会や環境にもたらすメリットを考えると高いなりの価値があるのだと佐藤さんは語る。現在は法人向けのサービスだが、将来的には個人宅への提供も検討していく方針だ。



本社近くにあるガスの充填所。



本社敷地内に設置された垂直型の太陽光パネル。ここで発電した電気は、事務所で活用している。



秋田市に開設したコインランドリー「LAUNDRY たぶるんハウス」2号店。

中小企業 振興施策 レポート



秋田県産業労働部は、成長分野への参入支援やデジタル技術の活用等による生産性の向上支援、起業や事業承継の促進、産業人材の確保・育成を通じ、県内企業の持続的な発展と魅力ある雇用の場の創出を図っています。

今回はこれまで支援してきた取り組みの中から、秋田県産業技術センターの技術支援を受けた北光金属工業株式会社取材。大型設備が揃う同社でどのようにIoT技術を導入し、現場が改善されたのか、お話を伺いました。

少人数で多数の大型設備保全を行う難しさ

昭和33年に設立された北光金属工業株式会社。向浜金属団地内に本社を置く、鑄造業を行う企業だ。工場内には大型の生産設備が多く、稼働中に設備が故障することで想定していない生産停止が発生し、工場全体の生産量に影響が出てしまうことが長年の課題だった。保全担当者の人員も少なく、多くの設備をすべて管理することは困難。そこで「産業技術センター技術支援」を活用し、設備の稼働状態を把握できるIoT技術を取り入れた異常検知システムの自社開発に取り組むことになった。

品質保証課課長代理の飛澤靖恵さんは「外部業者へ委託すれば簡単だという意見もありました。ただ、自社で行えば知見とデータが自分たちのものになっていく。なぜこうなのか、どうすれば良いのか。社員である私たちが考えていくことが大切だと感じました。」と語る。

こうして令和4年5月から3年間をかけ、産業技術センターとの共同研究が始まった。



工場内で最も目を引く溶鉱炉。金属を高温の炉で溶かす作業が行われている。



Youtubeでも公開中！

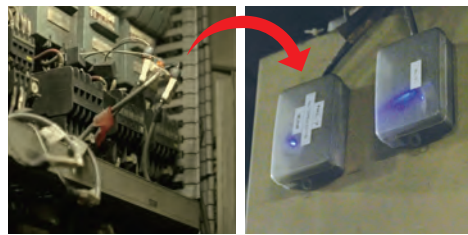
あえて故障が近い設備で実験、データを取得

プロジェクトチームは、5つの部署から参加した7名で構成。それぞれの分野から知識を出し合う形で進めていった。

経験豊富なベテラン社員が、これまで音や振動によって違和感を感じ取り、故障が近いと判断していたことを参考に、修理履歴から故障が近いと見込んだ設備を選定。加速度センサ内蔵のマイコンをベアリングに取り付け、振動異常を検知できるか、また、配線に電流センサを取り付けて過電流を検知できるか。データを収集し検証を行った。

その結果、生産設備の稼働状態をリアルタイムで把握できるシステムが完成。これにより、設備の故障を事前に検知し、想定外の実生産停止を避けることができるようになった。

ベテラン社員の勘に頼っていた保全作業も、数値で判断できるようになり、ノウハウの伝承にも貢献している。今後も他部署での同システム導入や設備の稼働率算出により、さらなる生産性向上へ役立てる予定だ。



配線に取り付けた電流センサ(写真左)から送られるデータを、マイコン(写真右)を通して品質保証課のパソコンへ送信。



とびさわ しずえ

品質保証課課長代理 飛澤 靖恵

北光金属工業株式会社
〒010-1601
秋田市向浜1丁目7-1
TEL.018-863-0004
https://www.hokkoo.co.jp/



HP



せがわ すむ

秋田県産業技術センター 研究員 瀬川 侑さん

センサをあえて故障が近いと予想される設備に付けたことで、すぐに結果が出てプロジェクトがスムーズに進んだだけでなく、社内の理解度や今後の展開に繋がりました。さらに、今回のシステムでは、コードを書かずにプログラミングできるツールを活用しました。専門知識がなくてもIoTが実現できる時代になってきていますので、導入を考えている方はお気軽にご相談ください。



令和7年度版 主催事業報告

内閣府地方創生事業 秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点 10周年 外部プロ人材活用フォーラムinミルハス

9月18日、あきた芸術劇場ミルハス小ホールで行われた「外部プロ人材活用フォーラムinミルハス」。内閣府地方創生事業として秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点が設立されて10年の節目として開催したもの。会場には51名、オンラインでも63名が参加した。

第一部では株式会社顧問名鑑の代表取締役社長である堤寛夫氏による基調講演「逆境を力に変える経営―激変する時代を生き抜く地方企業の戦略と決断―」が行われた。

第二部では、「変革か衰退か、変わり続ける中小企業のリアル『生き残りかけた変革挑戦』」と題したパネルディスカッションが行われた。株式会社秋田魁新報社仙台支社長・論説委員である小松嘉和氏がファシリテーターを務め、パネリストとして株式会社花善・八木橋秀一代表取締役社長、株式会社稲庭うどん小川・小川選子専務取締役、株式会社山本酒造店・山本友文代表取締役社長が参加した。



基調講演

逆境を力に変える経営―激変する時代を生き抜く地方企業の戦略と決断―



株式会社顧問名鑑 代表取締役社長 堤 寛夫 氏

株式会社顧問名鑑は、企業の経営課題の解決や新規事業展開を、豊富な知見を持った人材がサポートする経営顧問のマッチングサービスを展開している。代表取締役社長の堤寛夫氏は、自社の成り立ちから現在の事業内容について説明し、これまでサポートしてきた事例について一部を紹介した。「地方の経営者は常勤が良い、若手でなければと考えてる方が多い。だが、現実には日に日に若手の働き手は減っていて、採用力のある企業に集中してしまう。創意工夫次第で経営に外部人材のノウハウを活かすことができる。経営者の決断が未来を作る。」と力強いメッセージを発信した。



パネルディスカッション

変革か衰退か、変わり続ける中小企業のリアル『生き残りかけた変革挑戦』

3名の経営者に登壇していただき、外部人材を取り入れて行った「変革への挑戦」をテーマにパネルディスカッションを行った。



株式会社花善
代表取締役社長
八木橋 秀一 氏

大館市で名物弁当「鶏めし弁当」を販売する株式会社花善。「駅弁は出かけて食べる商品なので、コロナ禍で売上が95%ダウンしました。コロナ後も、オンラインでの打ち合わせが普及したことで売上は戻らない。そこで冷凍弁当を開発し、全国に届けようという方法に切り替え、輸出にも力を入れました。

初めて外部人材を活用したのは、輸出に取り組むためです。外部人材は、税理士さんをイメージするのかわかりやすく、全部自分でやるのは専門的な知識もなくで難いのでプロの力に頼るようにしました。

輸出の他、ECや冷凍商品の開発、営業などを外部人材に依頼し、今は2名の外部人材と契約しています。外部人材が欲しい場合は、さまざまなヒアリングを何度も受けることになるので、手間に感じますが、その過程で自社の弱点も整理され、ブラッシュアップされていきます。同じ思いで頑張ってくれる人とマッチングできることが一番重要だと思います。」



株式会社稲庭うどん小川
専務取締役
小川 選子 氏

湯沢市で秋田名物「稲庭うどん」を製造・販売する株式会社稲庭うどん小川。

「家業に戻った頃は、全国的に稲庭うどんが認知され、作れば作るだけ売れていましたが、子育てが一段落し、専務として事業に戻ると厳しい現実が待っていました。売上を伸ばすためには、新しいターゲットへの認知を高める必要があるとアドバイスを受け、リブランディングを決意。パッケージを刷新し、自社の強みや弱みを分析しました。歴史や伝統を重視しているメーカーが多い中で、おいしさや魅力を伝えるデザインへと切り替えたことにより、顧客の若返りが進みました。今では雑貨店などの取扱が増え、新たな顧客の開拓へ繋がっています。

また、海外進出にも力を入れ、現在は38の国と地域に流通、会社の売上の20%が輸出で成り立っています。

かつては家族経営で外部の意見を取り入れていませんでしたが、意見が現実的で参考になることから、今は中長期ビジョンを立てるためにも外部人材に依頼し、事業を進めています。」



株式会社山本酒造店
代表取締役社長
山本 友文 氏

白神山地の麓で生まれた水とお米を使い、酒造りを行う株式会社山本酒造店。

「私自身が家業に戻った当初は、かなり経営的には危機的状況だったため、自分で酒造りに挑戦し、蔵の立て直しに取り組みました。コロナ前には、生産できる上限まで造れるようになり、酒蔵そのものは安定経営となりました。その後、発酵ツーリズムの拠点として、ファンサービスやファンビジネスに着手し、マイクロブルフリーを併設したカフェをオープン。

以前、一棟貸しの宿泊施設の開業準備が滞っていたときに、外部人材のことを知り、依頼しました。難航していた開業準備が、2名の外部人材のおかげで、たった3か月で開業に至りました。外部人材の方は問題を解決してくれますが、丸投げするものではなく、最後の判断は経営者が自ら学び、準備を重ねた上でサポートしてもらい、推し進めていくものだと思います。今後はカフェのオペレーションについて外部人材の力を借りる予定です。」

秋田県中小企業振興施策に関するお問い合わせ先

秋田県産業労働部 産業政策課 TEL.018-860-2214

秋田県産業技術センター TEL.018-862-3414

経営 サプリメント

テーマ

地方創生と プロフェッショナル人材 戦略拠点事業

新たな段階に入った地方創生に対して、
プロフェッショナル人材戦略拠点の
役割と取り組みについて紹介します。



秋田県
プロフェッショナル人材戦略拠点
マネージャー

菊地 智英
Kikuchi Tomohide

【主な経歴】

昭和59年秋田県庁入庁。平成26年山本地域振興局総務企画部長、平成28年情報企画課長、平成31年企画振興部参事で退職、令和2年～令和6年3月まであきた企業活性化センター専務理事、令和6年2月から現職。

【お問い合わせ】

秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点 TEL .018-860-5624

01 地方創生とプロフェッショナル 人材戦略拠点事業の関連

地方創生の取組は、平成27年9月に安倍改造内閣の主要施策「まち・ひと・しごと創生事業」としてスタートしました。当初は東京一極集中を是正し、地方の人口減少を克服することで、持続的な経済成長と社会の維持を図ることを目指して進められてきました。

令和7年6月には、これまでの課題を踏まえ、人口減少を前提とした縮小社会への適応とデジタル技術の徹底活用を柱とする、今後10年間を見据えた「地方創生2.0基本構想」が閣議決定され、新たな段階に入っています。

この中で、「プロフェッショナル人材戦略拠点事業」は、地方の企業が新事業の立ち上げや生産性向上を実現し、「稼ぐ力」を高めるための具体的なエンジンとして機能しています。その主な役割は、都市部の企業等で培われた経験豊富なプロフェッショナル人材を地方の中小企業に呼び込むことです。



02 拠点の具体的な活動内容

プロフェッショナル人材戦略拠点は、各都道府県が主体となって運営されており、以下の活動を通じて地方創生に貢献しています。

企業ニーズの発掘・事業化の支援

- ◎地方中小企業の経営課題を掘り起こし、それを解決するために必要な人材像を明確化します。
- ◎特に、“新事業の立ち上げ、海外展開、生産性向上、デジタル実装(DX)”など、企業の成長に直結する戦略的取組を重点的に支援します。

プロ人材の紹介・マッチング

- ◎課題解決に貢献できる都市部などから経験豊富なプロフェッショナル人材を人材紹介会社の膨大なデータベースの中から、県内企業に紹介します。
- ◎企業と人材紹介会社の間に入り、雇用条件や役割の調整といったマッチングを支援します。

定着支援と広域連携

- ◎マッチング後の人材の定着をサポートするとともに、複数の県をまたいだ広域的な人材確保の連携に取り組みます。

このように、「プロフェッショナル人材戦略拠点」は、地方創生における「稼ぐ力」の強化と「地方への新しいひとの流れ」の創出という二大目標を、人材面から実現する重要な役割を担っています。

03 秋田県の拠点事業の状況

秋田県では、平成27年12月の開設以来、県内中堅・中小企業の「攻めの経営」への転換を支援するため、必要な即戦力人材の獲得を集中的に支援しています。当初は正規雇用人材の活用が主体でしたが、令和2年以降は副業・兼業人材の活用も加え、経営課題解決の支援を多角的に行っています。

拠点事業の実績推移(正規雇用・副業兼業の累計)

年度	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	合計
相談件数	50	221	173	183	201	238	233	257	250	243	2,049
成約件数	0	7	35	43	43	55	90	93	148	127	641
うち副業兼業	-	-	-	-	-	3	19	53	87	91	253

04 拠点の今後の方向性

拠点の今後の活動は、「地方創生2.0基本構想」の方向性に従い、多様な働き方の推進と具体的な戦略課題へのコミットが中心となります。

(1) 副業・兼業など多様な活用形態の推進

規模の小さい中小企業でも、必要な専門スキルを必要な期間だけ取り入れられるよう、副業・兼業を積極的に活用することで、「攻めの経営」への転換を強力に支援します。

●柔軟なソリューションの提供

都市部の大企業人材などを、業務委託契約等によるリモートワークやスポットでの支援といった形で活用することを提案します。これにより、少ない予算と人数でも成果を創出でき、企業の生産性向上を図ることが期待されます。

●コスト効率の向上

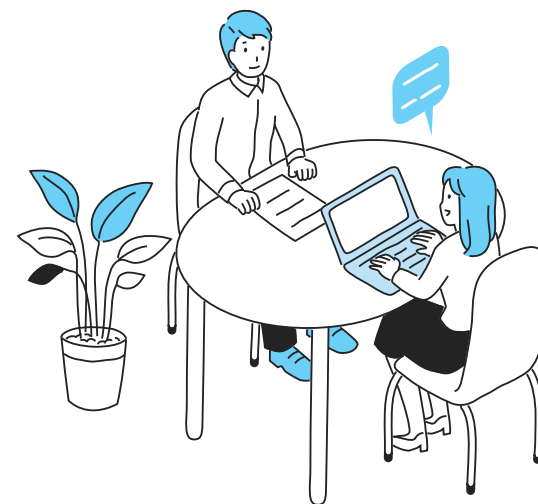
副業・兼業による専門人材の活用は、正規雇用よりも低コストで、特定の経営課題の解決に特化したノウハウを得る上で有効な手段となります。

(2) 具体的な戦略課題へのコミット

企業の成長に直結する以下の戦略的な取組を重点的に支援します。

重点分野	支援の具体的内容
スタートアップ	業種や成長ステージに応じた多種多様な人材ニーズに対応します。
デジタル人材	企業のDXに対する成熟度に合わせた多様なデジタル人材のマッチングを強化します。
海外展開	海外ニーズの把握や輸出に係る手続きなどに専門性・経験を有する人材のマッチングを行います。
生活環境教育	電気・ガス・熱供給・水道業、教育関係など、地域生活に不可欠な分野での経営管理、生産性向上等を支援します。
副業・兼業の活用分野	食料品製造業、建設業、農業、介護福祉施設など幅広い業種で「Webマーケティング・越境EC」「販売戦略サポート」「バックオフィス」など多岐にわたるミッションを支援します。

プロフェッショナル人材の活用についてもっと知りたいという方は、秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点にぜひご相談ください。お待ちしております。



新発売

アルコール度数 / 16.0
使用米 / 山田錦
精米歩合 / 28%
720ml 10,000円
(税込11,000円)

商品情報

光閃

こうせん

限定品

純米大吟醸 袋吊り原酒

酒米の最高峰である山田錦を二八%まで磨き上げ吊り下げた酒袋からしみ出てきた雫だけを一滴一滴じっくりと時間をかけて集めました。杜氏の技と魂が光る究極の芸術品です。

杜氏と蔵と革新力。令和七年 全国新酒鑑評会 金賞受賞
高清水は二十五回連続金賞受賞

賛助会員広告

秋田酒類製造株式会社 秋田市川元むつみ町4番12号 TEL:018-864-7331 (代表) お酒は20歳になってから。お酒はおいしく適量を。妊娠中や授乳期の飲酒は お控えください。飲酒運転は法律で禁止されています。

あきた企業活性化センターからのお知らせ

皆様の声をお聞かせください！

〇〇が面白かった
ためになった

△△をもう少し
□□にしたらどうか

▲▲会社がやっている
■■を取り上げて欲しい

●●のテーマについて
紹介してほしい

など…

本誌を読んだ感想や要望など、皆様のご意見をお待ちしております
ご連絡はこちらから▶ 総合相談課 soudan@bic-akita.or.jp

ご意見フォーム

秋田県からのお知らせ

秋田の新たなイメージ動画をご活用ください！

県では、都市機能の充実や最先端の取組を行う企業など、秋田の新たな魅力・イメージを県内外に発信する動画を作成しました。これまでとは違った視点で作られた、「挑戦的」で「行政らしくない」動画を、是非ご活用ください。

県公式YouTubeチャンネル「WebTVあきた」

新しい「ムケエナム」
見てみる？

WebTVあきた

動画の素材は、「秋田動画ライブラリ」からダウンロードして自由に活用できます！

秋田動画ライブラリ

例えば…このような場面で活用できます。

秋田県で開催される全国大会やブロック会議の場で、開会前やプログラムの合間に動画を流す

県外イベント等で企業のブースを設ける際に動画を流す

お問い合わせ先

秋田県総務部広報広聴課
Mail:joukai@pref.akita.lg.jp
Tel:018-860-1076

あきた企業活性化センターからのお知らせ

2025年度
専門家派遣事業

あきた企業活性化センターでは、センター登録の民間専門家を派遣し、課題解決のための診断・助言を実施しています。

派遣対象分野

●経営全般 ●IT・情報化 ●技術・生産 ●食品・醸造 ●業務連携・協業化
●法務・労務 ●税務・会計 ●海外展開 ●販売マーケティング ●その他

※この事業は企業等の自助努力に対して専門的見地から診断・助言を行うものであり、企業等の実務や取引先等の斡旋を行うものではありません。

専門家の謝金を補助

派遣日数は最大延べ2日間で専門家の謝金を全額補助します！

お問合せ

あきた企業活性化センター／総合相談課
〒010-8572 秋田市山王三丁目1-1 TEL:018-860-5610 FAX:018-863-2390 HP:https://www.bic-akita.or.jp

あきた企業活性化センター

あきた企業活性化センターからのお知らせ

賛助会員募集

賛助会員様の
無料広告は
随時
受付中

あきた企業活性化センターでは、県内の中小企業の新分野進出や経営革新等を支援する事業を行っており、この活動にご賛同いただける賛助会員を募集しています。

年会費1万円

企業・団体・個人等、どなたでもご入会いただけます。
また、有料広告・無料広告の掲載についても随時募集しております。

主な会員特典

1 当センターが発行する月刊情報誌「ビックあきた」の無料配布(12ヶ月分)
毎月月末に3,000部発行。賛助会員のほか、マスコミ各社、金融機関、商工団体、県内の大学・高校等へ配布しています。

2 当センターWEBサイトのリンク集への掲載

3 「ビックあきた」への賛助会員広告が無料
毎月2社程度、A4・1/4頁、カラー印刷

4 有料広告欄の費用が半額

5 企業情報等のリーフレット折り込み
※要事前相談

6 当センターHPのバナー広告料が半額
当センターの賛助会員のリンクも掲載

お問合せ／申請先

あきた企業活性化センター 総合企画部 総務企画課
TEL.018-860-5603 FAX.018-863-2390 E-Mail:soudan@bic-akita.or.jp WEBサイトはこちら▶

10 2025.12 vol.533 [お知らせ]

[お知らせ] 2025.12 vol.533 11